

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科 6年

氏名: 稲葉桜子

授業科目名	海外歯科研修プログラムVI
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私はブリティッシュコロンビア大学で矯正、義歯補綴、解剖、睡眠時無呼吸症候群の講義を主に受けた。前もって受ける講義の資料を見て、分からない単語を調べる作業に時間をかけた。授業中は先生の言葉をシャドウイングし、発音を学んだり、理解を深めるよう努力した。ブリティッシュコロンビア生はPCに講義の資料をいれ、PC上でノートを作成しており、大変効率が良く、自分も真似して講義で重要だと思った点やわからなかったことをPC上でメモするよう努力した。授業後はわからなかったことは直ちに調べたり、zoomによる勉強会で質問することで解決した。成果として、歯科英語が身についたと感じる。そして同時に歯科英語の不足も身に染みたため、普段から英語論文を読むことを考えている。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私はブリティッシュコロンビア大学生活で大きな違いを学んだ。日本とカナダとの歯科学生の授業の違いである。日本での見られる、先生が主に講義するといった授業もあったが、生徒主体の授業がとても多かった。矯正の授業ではグループで症例を話し合いながら、先生の質問に答える、義歯補綴の授業では学生同士のグループ発表して、聞いていた学生からの質問に答え、先生は話をまとめる程度に講義をしていた。また、先生の講義中の質問に対して間を置くことなく色々な学生が解答していて日本の学生との積極性の違いを感じた。グループ活動中、全員が発言をしている姿勢や、先生の質問に対しては声を出して答えるといった姿勢を自分の中に取り入れたいと考える。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私は研修後、成長したところ、心がけるようになったところがそれぞれ存在する。成長した点として、かなり英語のリスニング力が上がった。日本に帰って来てからアメリカのラジオを聴いた際、今まであれば0.5倍速で聴いていたところを1.0倍速でも聞き取れるようになっていた。また、初めて聴く洋楽の歌詞に対して、なんとという単語を発しているのか理解しながら聞いた際に大変感動した。心がけるようになった点として、少しでも道端で迷ってる外国人に対して積極的に声をかけるようになった。私は留学中、道がわからなくなり、何度も現地の方に助けてもらった。その人たちに直接、お礼をお返しすることはできない代わりに、他の外国人に優しさを分けようと思うようになった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>自分の住む地域にいる外国人に対しての歯科ボランティアを行うことを目標とする。歯科治療はもちろんのこと、英語で対応が可能なかかりつけ歯科へ繋げ、長期的な歯科治療ができるようなボランティア活動を考えている。そのために、日本の歯科医師からの協力が必要である。協力得るために広報活動やボランティア活動の基礎的な計画を立てる。さらに外国人の方が日本でも安心して受けられる歯科医療のために歯科英語、歯科技術、活動を外国人の方に知ってもらえるよう、広報方法を勉強する予定である。歯科英語に関しては研究において英語論文を積極的に読む、歯科技術に関しては日本人への治療技術を基礎からしっかり学ぶ、広報活動に関して地域雑誌、SNS、ホームページへの掲載など広報の仕方、広報の工夫を普段の生活から発見したり、経験者から意見を聴いていくといったことを今後行って行きたいと考える。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科 6年

氏名: 金城紗花

授業科目名	海外歯科研修プログラムVI
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地の大学では、3年生、4年制の授業に参加した。 ・3年生は主に座学がメインであった。各机の上にはマイクがあり、講義中、質問がある生徒はマイクを使って質問や要望を言い、先生が答える、というスタイルであった。学生は自分の意見をとてもストレートに伝えており、授業への積極性に違いを感じた。 ・4年生は主にPatient Careという臨床がメインであった。学生は実際に患者を診療し、治療のほとんどを1人で行っていた。話を聞くと、学生は自分の診療したい症状を持つ患者を外部から探して病院まで連れてくることもあり、治療を学ぶ上で学生が患者を探すことから積極的に動く必要がある、という点が日本の大学との大きく異なる点だと思った。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>カナダの歯科大学(The University of British Columbia)を訪問し、私が学んだことは、日本の歯科大学との違いについてである。 カナダでは、4年生の大学を卒業した後に優秀な成績を収めた人だけが4年生の歯科大学に入学することができる。つまり、8年間大学に通うことになる。そのほかにも、州立大学であるが授業料はとても高額なので、誰でも入学することができるわけではない。 だからこそ、学生の勉学に対する意識は日本の学生よりも高い、という話を聞いて、納得できる部分が多くあった。授業への参加態度だけでなく、学生が自分の診療したい症状を持つ患者を外部から探して病院まで連れてきたり、自分から行動する意識の高さなど、学べる点が多くあった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地で意識したことは、自分から話しかける、話題を出すことである。相手に何かを察してもらおうと期待するのではなく、自分の希望や考えをはっきり伝えることを意識した。そのためには、自分の考えをしっかりと頭の中で持ち、その言葉をつないで英語として話す、ということを行った。その結果として、自分の意見をしっかりと伝えることができ、円滑な会話や情報交換ができたと思う。 具体的なエピソードとしては、空いている時間にコーディネーターの先生に「何か他に参加できる授業はないか」自分から相談し、院生以上の学生の治療を見学させて頂いたり、予定にはなかったzoomでのセミナーに追加で参加させてもらえたりするなど、自分から話しかけ、行動することでとても有意義な時間を過ごせたと思う。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回、カナダの歯科大学を訪問し、現地の大学生と一緒に授業を受け、日本の歯科大学との共通点や異なる点、優れている点などを知ることができた。そのほか、日本の大学生と現地の大学生の違いや、入学することの難しさ、外部への積極的な働きかけの必要性、資金面などにおいて、日本の大学の恵まれている点を強く痛感することもできた。 このような経験を通して、日本で学ぶことの良さを噛みしめながら、他国の歯科の良い点を見つけながら吸収していきたいと感じた。今後も、様々な国や地域の歯科についての知識や理解を深め、自分自身の視野を広げていき、患者にとって最善の歯科治療を提供できる歯科医師を目指していきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部6年

氏名: 大重颯也夏

授業科目名	海外歯科研修プログラムVI
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>カナダのブリティッシュコロンビア大学歯学部での授業に参加させて頂きました。授業では、基礎系科目の座学や学生のプレゼンテーション傍聴、歯科医師および歯科衛生士になるための病院実習の様子を見学させて頂いたことに加え、歯科医師の先生方のZoomセミナーへご招待いただき参加致しました。また、カナダの方のお話を伺うことで、カナダと日本における歯科医師と歯科衛生士の業務内容の相違点や学習体制の違いに触れました。専門用語を交えた英語での会話は決して簡単なものではありませんでしたが、授業内容や会話を理解したり母国語を使用せずに自分の気持ちを伝えるための工夫が不可欠である環境ならでは、諦めない姿勢を身につけられたと感じました。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>まず、ブリティッシュコロンビア大学(以下UBC)の診療室と日本の診療室との違いが印象的です。小児の鎮静中は照明を暗く落とした個室で保護者が同室した上で行われていました。日本では照明は落とさずに処置を行い、保護者も処置中は別室に待機していることが多い印象です。次に、使用している器材です。日本ではバキュームとミラーは分離していますが、UBCではそれらが一体化した器具を用いて、また患者自身にもバキュームを持たせうえて治療を行うので術者の負担が少なそうだと感じました。さらに、抜歯中に患者の好きな音楽を流しながら手術を行っていたのも海外の柔軟性の高さの表れのように感じました。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>カナダでの歯学部進学に至るまでの過程において、まず理系の大学を4年間経た後に歯学部進学を選択し、在学期間はさらに4年間という、歯科医師として働くまでに日本よりも長い時間を必要とする点が印象的でした。だからこそ学生は歯科医師になる強い意志と覚悟をもって学習に臨み、3・4年生の臨床実習では学生自身が主体になって診療を行っていました。日本は6年間の大学制であるため途中で道を変えることができず大変だと思う、との声を現地の方から頂き、日本と外国の学習制度に対して考えるようになったとともに、歯科医師を目指すという目標は同じであることから、自分も彼らのような高いプロ意識を持って今後の歯科医師としての人生に向き合うべきだと刺激を受けました。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>鹿児島に居住する市民の一人として、地域社会発展のために英語でのコミュニケーション能力を高めることの必要性を感じました。今回の留学経験を通して、世界共通言語としての英語の重要性を改めて感じると同時に、非母国語を話す者のコミュニケーションは特に相手の意思を汲み自分の意思を分かりやすく伝える心がけが大事になるのではないかと感じました。英語での会話に対し自分で勝手にハードルを高くし不安になるのではなく、積極的に行動していこうと思っています。鹿児島は様々な外国人の方が観光や留学にいらっしゃる県であるので、その姿勢が社会に貢献できる1つのことなのではないかと考えます。また、今回の留学で得た気持ちを忘れず、歯科医業に対し真摯に臨み、自己研鑽の姿勢を忘れずに患者さんの健康を支えていきたいと思ひます。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部・6年

氏名: 田口未紗

授業科目名	海外歯科研修プログラムVI
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修先では、2～4年生の歯学部の授業(麻酔や矯正などの臨床科目、生理学などの基礎科目)への参加、卒業生による研究発表会への参加、歯科衛生士・歯科医師になる学生の実習への参加や見学、現役歯科医師によるセミナーへの参加など幅広い経験を通して、日本の制度との違いや学生の授業の取り組み方、実習での学習する内容の違いを肌で感じることができました。特に学生が治療を積極的に行なっている姿や授業中に積極的に発言し議論する姿にも非常に強い刺激を受け、治療器具や機械の違いも詳しく学ぶことができ、UBCの学生だけでなく、現役の歯科医師の先生の治療方法や考え方を知ることができたのも自身にとって大きな経験となりました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>現地での生活を経験し、間近で実習や授業に参加できたことで技術面、学術面双方で鹿大との違いを感じることができました。基礎科目や臨床科目ではそれぞれ生徒が積極的に発言し、また生徒自身でしっかりと治療計画を立てて患者を全て担当し治療している姿が印象的でした。ユニットの使用方法や治療で使用する材料や方法も異なる部分が多く、これから自身が治療を考える上で非常に参考になりました。さらに研究室で使用している様々な機械を見学することができ、実際に自身が大学で使用したことがあるものや最新の技術をもつ機械も目にしたことで、更なる研究方法にも興味を持ち、双方の面でこれから役立つ知識と経験を得ることができました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は今回海外へ行くのも初めての経験であり、語学力にも自信がなかったため研修前は期待する気持ちと共に不安がありました。ですが、実際にUBCの学生や先生方に治療方法や制度について質問したり、現地の方と自身のことについて話したりと今までは不完全な状態で伝えることを避けていた自分が積極的に交流する楽しさ、伝える重要さを学べたことが非常に重要な経験となりました。また、実際に生徒が抜歯をする実習で生徒自身がペアとなり最後まで生徒のみで治療を行う姿をみて患者への細かい説明や接し方の違い、自身との知識や技術力の差を強く実感し、自分に足りない部分やこれからの課題を見つけられたことが大きな変化だと感じました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の留学は自身が積極的に挑戦することへのハードルを大きく変えた経験であり、これからの目標に繋がる経験でした。私はこれから大学院に進学し、矯正学分野をより深く学びたいと考えています。歯並びの問題だけでなく、それに付随した顎変形症や噛み合わせの問題で困っている患者一人一人に最適な治療法を見つけられるような歯科医師になることを目標としています。そのため今回得た多くの学びをもとに、これからさらに自身の語学力を高め積極的に様々な国と交流を広げ幅広い視点で知識と技術を身につけていきたいです。そして身につけたものをより多くの地域の方に還元できるよう積極的に発信していく取り組みもしていきたいと考えています。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部6年

氏名: 河野 萌

授業科目名	海外歯科研修プログラムVI
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>U B Cでは、神経学や歯科矯正学、冠橋補綴学などの講義や、patient careという日本で言う臨床実習の見学を行いました。歯科矯正学の講義は、症例に対して、アングルなど、その症例がどういった症例なのか、また、その症例に対してどういった治療を行うか話し合った後に発表していく形式でした。いきなり答えを教えるのではなく、まずは生徒自身に考えさせるのが印象的でした。Patient careにおいては、学生が主体となって患者さんを見ていることに驚きました。学生が患者さんと呼ぶところから予約を取るところまで行っているそうです。抜歯を見学しましたが、学生がアシストにつき、他の学生が抜歯を行い、教員は多くの学生を転々と教えていく形式でした。臨床実習を終えた私ですが、教員がいない中で抜歯を行える自信はありません。U B Cの学生に負けてられないと、実技の練習にも励もうと思います。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>カナダで生活してみると、日本と異なる点がいくつかありました。まずは物価です。カナダは物価が高く、日本では百円で買える水も、カナダでは3～4ドルします。外食をしようと思ったら20ドルを下ることはありません。また、私が最も苦労したのはチップ文化です。日本では見られない文化なので、いくら払うのが正しいかわかりませんでした。このように、苦労した点はいくつかありますが、カナダで最も感じたことは、人の暖かさです。U B Cの歯学部棟を歩いていると、先生方だけでなく生徒も気遣って声をかけてくれました。カナダを楽しんでいる？と心配し、観光名所や美味しいレストランなどを紹介していただきました。私も今後留学生と関わる際は、親身に声をかけようと思いました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修で最も変化したと思うことは、英語への意識の変化です。私は、今まで、英語でのみコミュニケーションが取れるという状況に身を置かれた経験がほぼありませんでした。コミュニケーションを取るのに必要なのはスピーキング能力だと思っていましたが、実際は何より必要なのはリスニング能力でした。U B Cの先生方とお話しする機会が多くありましたが、ネイティブの方の話す速度感を初めて体感し、そもそも聞き取ることができなかつたらコミュニケーションは始まらないと気付きました。来年から歯科医師として働きますが、英語を聞いて理解するという時間を作ろうと思います。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>グローバル化が進む中で、今後日本に住む外国人は増えていくと思います。そういった外国人が歯医者に通いやすくなるように、英語の学習に励もうと思います。翻訳アプリケーションがあるから英語は勉強しなくても良いと言う声も見かけますが、今回の研修でアプリケーションによるコミュニケーションの不自由さに気づきました。日本語が得意でない外国人の患者さんが、主訴等の、自分の表現したいことを諦めないように、英語の学習時間を日常的に取っていこうと思います。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部6年

氏名: 増田茜

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅥ
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修先での学習内容は実際にブリティッシュコロンビア大学の3, 4年生の授業に参加したり、ペイシェントケアと言っているポリクリの実習風景を見学させていただいたりしました。実際の授業は専門用語も多く聞き取るのは難しかったのですが、アプリを併用しながら聞くと補綴の筋圧形成の話や、矯正学のお話を理解することができました。内容は私が鹿児島大学で学習してきたものとおなじでした。ペイシェントケアについては、日本では見られないミラーやバキュームを使用していたり、一つ一つのユニットがとても大きく診療のしやすそうだなと感じました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>現地ではまず公共交通機関を使用したときに、困っていたら皆さんが声をかけてくださったり、優先席は普段は座るけれど利用するべき方がいらっしやると自然に手助けをしている現地の方を見て、日本より見て見ぬふりをせず、コミュニケーションをとっていることに感動しました。また、私たちは6人でルームシェアをしたのですが、何も言わなくても皆が協力して家事を分担したり、やってほしいときは積極的に声をかけて日々の生活を送ることができたので、私も誰かがやってくれるだろうと思うのではなく、言葉に出してコミュニケーションをとることをこれからも大切にしていきたいと思いました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>学習面では私は今まで合格したらいいやという考えで平均点を狙って学習することが多かったのですが、実際に今回ブリティッシュコロンビア大学の方を拝見すると自ら勉学に励み学習スペースもいつも人であふれている光景を目の当たりにし、私自身もこの先高みを目指して努力したいと感じています。また、今回私は人生で初めて一人で国際線を利用したのですが、誰も頼る人がいないと自ら事前に調べて行動するという点でとても成長することができました。それでも慎重さが足りず失敗したことがたくさんあったので、これからは生かしていきたいと感じています。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回多国籍の方が多くいらっしやるカナダで生活したことで、様々な文化や考えに触れることができ自身の考え方も柔軟になったと感じます。これから歯科医師として生きていく中で、患者さんの様々な思想に触れる機会が多いと思うので、歯科医師としても目線だけでなく、患者さん自身の考えに沿って考えられる歯科医師として活躍していきたいと思っています。そのためにも積極的に他人と関わっていきたいと思います。また語学に興味がいよいよ一層出てきたので、語学力を高めて海外の方が診療にいらっしやても対応できる力をつけたいと思います。</p>	